

IPBESシンポジウム「持続可能な将来に向けて、自然の価値とわたしたちの価値観を問い直す」



IPBES価値評価報告書のポイント解説

The methodological assessment report on
**THE DIVERSE VALUES
AND VALUATION
OF NATURE**
SUMMARY FOR POLICYMAKERS

橋 本 禅

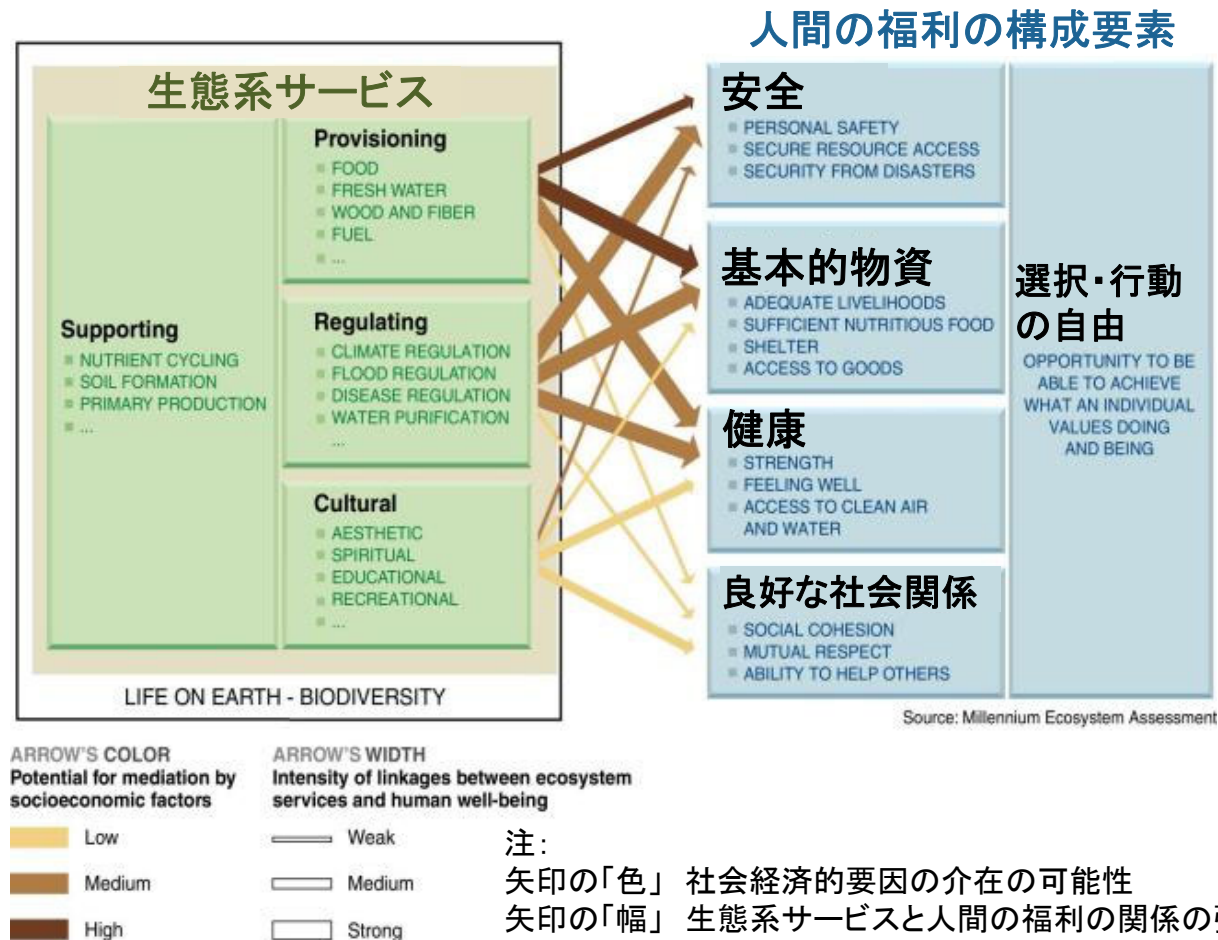
東京大学大学院農学生命科学研究科



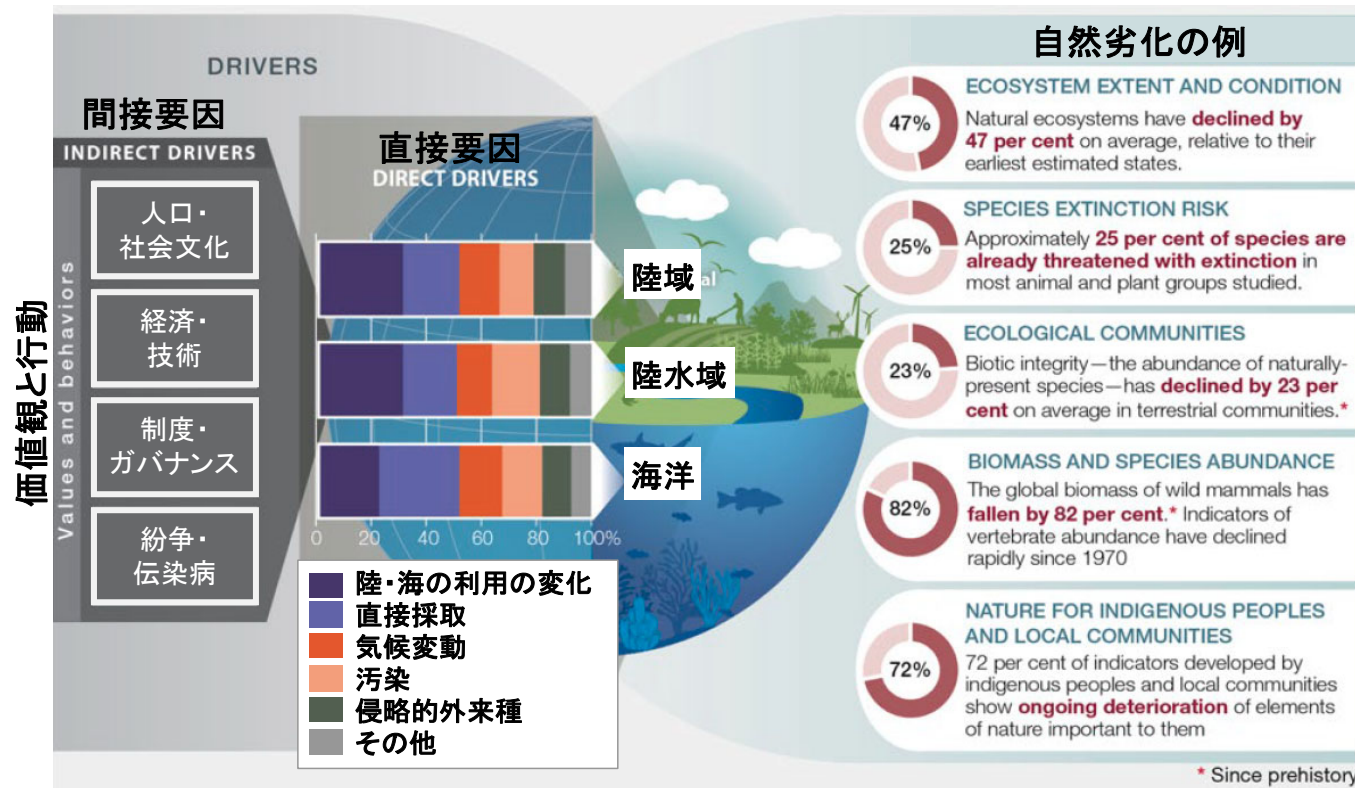
生物多様性保全政策における2つの転換点

(第1の転換点)生態系サービスは人間の福利を支えている

ミレニアム生態系評価は生態系サービスと人間の福利の相互関係を明示
→人々の**福利の維持・向上**には、
生態系サービス**供給の基盤**となる**生物多様性の保全**が不可欠



(第2の転換点)生物多様性の劣化を引き起こす直接要因への対処も重要。
だが、それだけでは劣化を食い止め、持続可能な社会を築くことはできない



生物多様性の低下を引き起こす直接的要因

- 直接要因の背景には、生産・消費パターン、人口動態、貿易、技術革新、ガバナンス等(間接要因)がある
- 生物多様性保全の実現には間接要因への介入が重要
→経済、社会、政治および技術にわたるシステム全体での社会変革が必要

IPBES価値評価報告書のポイント

価値評価報告書のキーメッセージ①(一部抜粋)

- 世界の**生物多様性の危機**の原因と対処の機会は、**政治的・経済的決定**において**自然**がどのように**評価・考慮**されているかと密接に関係
- 自然の価値は多様**であるにもかかわらず、ほとんどの政策立案アプローチは、**狭い範囲の価値を優先**（例：経済価値）

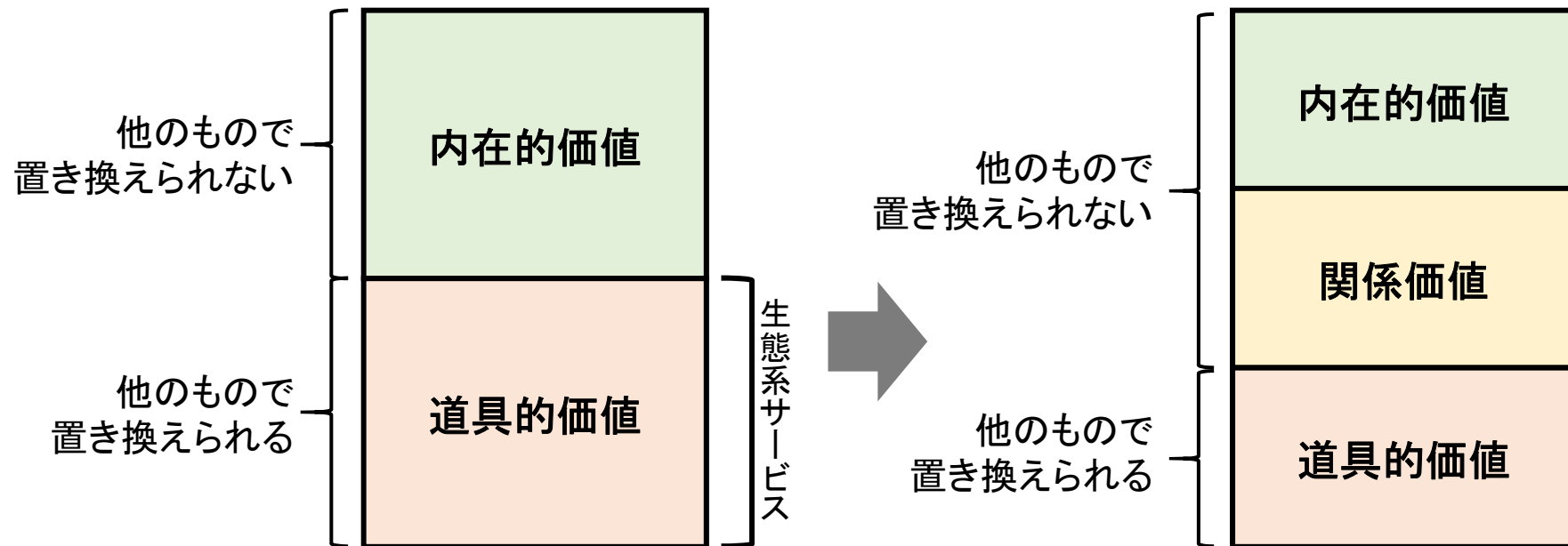
1970年以降の自然の寄与の世界的傾向



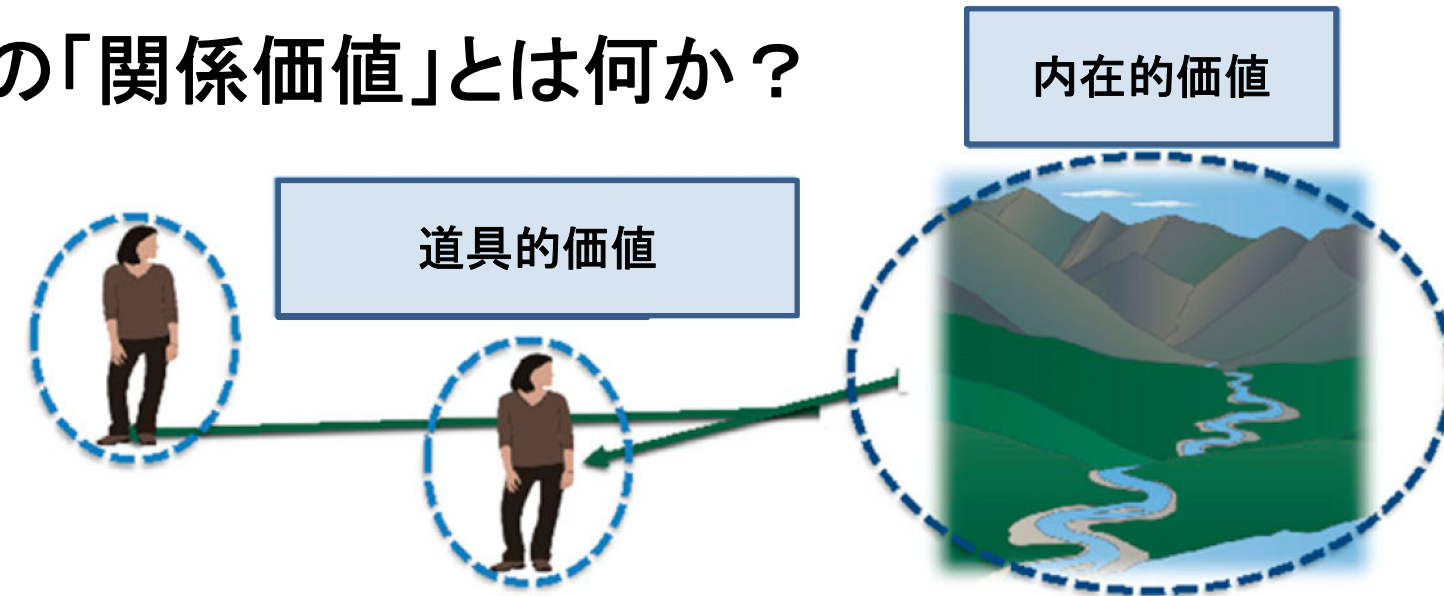
自然の価値は多様

○自然の「特定の価値」 特定の状況における自然の重要性

- 内在的価値 : 自然は存在そのものに価値がある(人間による評価とは無関係)
- 道具的価値 : 自然は人間にとって有用だから価値がある
- 関係価値 : 自然と人との関わりの中に見いだされる価値

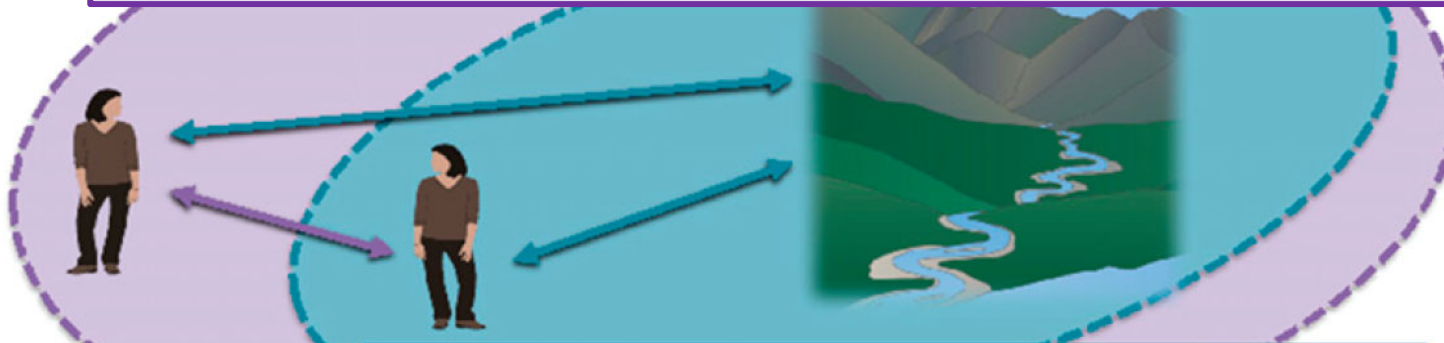


自然の「関係価値」とは何か？



関係価値(人間集団、コミュニティとして)

- この場所はわれわれが、われわれらしくあるために重要だ(コミュニティ・アイデンティティ)
- 自然の中での生活が他の人々との結びつきを強めている(社会的連帯)
- 生態系のケアは現在世代だけでなく、将来世代のためにも重要だ(社会的責任)
- 自然界のあらゆる生物・非生物のケアは同義的にも必要だ(非ヒトに対する同義的責任)

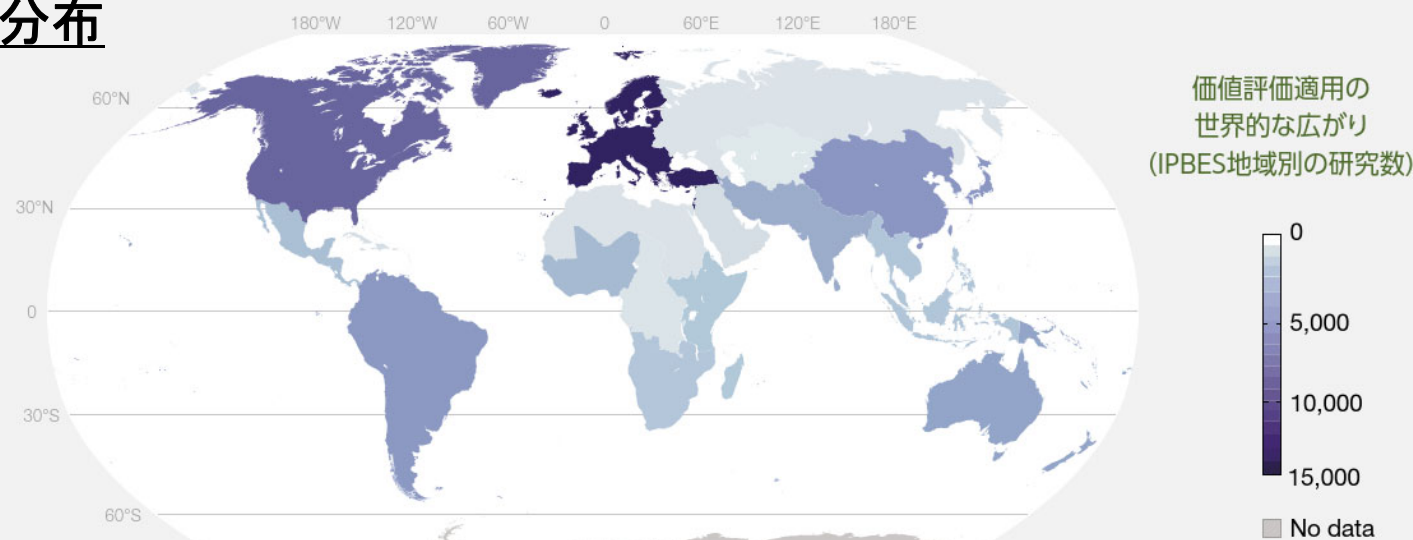


関係価値(個人として)

- この場所は私が、私らしくあるために重要だ(アイデンティティ)
- 地域環境に配慮した生活は、私の生活をより豊かで充実したものにする(スチュワードシップ・ユーダイモニック)
- この土地を良い状態にすることは、同義的にみて良いことだ(スチュワードシップ・プリンシプル、美德)

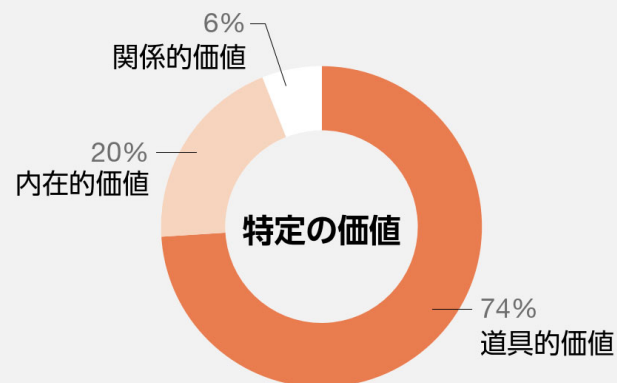
地球規模で見た自然の価値評価の取り組み状況

○地理的分布

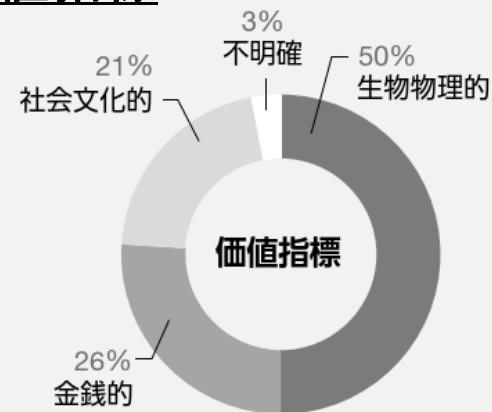


→欧米での評価実績が多く、北・中央アフリカ、中東、東欧、中央アジアの事例が少ない。
※情報、(技術的、財政的)資源、能力のギャップ。ただし、政策形成に活用された例は少ない。

○評価対象の特定の価値



○価値指標



→関係価値の評価、社会文化的価値指標の利用が少ない

価値評価報告書のキーメッセージ②(一部抜粋)

- 世界の生物多様性の危機の原因と対処の機会は、政治的・経済的決定において自然がどのように評価・考慮されているかと密接に関係
- 自然の価値は多様であるにもかかわらず、ほとんどの政策立案アプローチは、狭い範囲の価値を優先(例. 貨幣価値)
- **自然の価値の多様性を認識し、評価**することで、自然の価値を考慮した政策立案が可能に

自然の価値は多様、見方も多様

○自然の「特定の価値」 特定の状況における自然の重要性

- 内在的価値 人間以外のものの主体性、生物多様性の固有の価値
- 道具的価値 目的のための手段、ニーズの充足のための自然の価値
- 関係価値 自然と人との関わりの中に見いだされる価値

○自然の「広範な価値」 人生の指針となる原則や目標

- － 繁栄、生計、帰属、健康、管理、責任、自然との一体感、調和

○世界観 人々が世界や自然をどのように捉え、関わるか

- － 人間中心主義、生物・生態中心主義、多元的中心主義、宇宙中心主義

○知識体系 知識、慣習、信念の体系

- － 学術的、土着的、地域的



価値評価報告書のキーマッセージ③(一部抜粋)

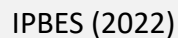
- 世界の生物多様性の危機の原因と対処の機会は、政治的・経済的決定において自然がどのように評価・考慮されているかと密接に関係
- 自然の価値は多様であるにもかかわらず、ほとんどの政策立案アプローチは、狭い範囲の価値を優先(例. 貨幣価値)
- 自然の価値の多様性を認識し、評価することで、自然の価値の考慮した政策立案が可能に
- **持続可能で公正な未来の実現には、自然の多様な価値と人々への寄与(生態系サービス)を認識し、意思決定に組み込む制度が必要**

①価値評価の実施、
②意思決定への評価結果の組み込み、
③政策・権利/権限・規制等の改革、
④社会目標の転換

介入点

浅い ← → 深い

包括的な意思決定 政策・権利 社会的規範や目標の転換



生物多様性の危機に対処するために必要な**社会変革**は、現在の短期的かつ物質的利益を重視する価値観から、**社会全体で持続可能性に沿った価値観を育む方向へ転換**できるかどうかにかかっている

○グリーン経済

経済制度、技術、業績評価基準の改革を重視

○脱成長

物的な富の公平な分配、世代間・世代内の衡平、先進国におけるエネルギー・資源の消費削減を重視

○自然保護

生物多様性をそれ自身のために保護し、保護区ネットワークの拡大を重視

○アース・スチュワードシップ

地域主権と農地改革、連帯、生物文化的実践の推進を重視

